

茨城新聞ほか全国16紙に記事が掲載されました

令和4年12月に本校進路指導部が共同通信社より取材を受けました。

下記のとおり、令和4年12月29日から令和5年1月4日にかけて全国16紙（発行部数合計約287万部）に記事が掲載されました。

記

【掲載紙一覧】

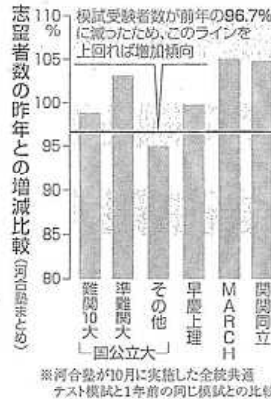
河北新報	（令和5年1月4日）
デーリー東北	（令和4年12月30日）
山形新聞	（令和4年12月30日）
福島民報	（令和4年12月29日）
福島民友新聞	（令和5年1月3日）
茨城新聞	（令和4年12月29日）
千葉日報	（令和4年12月30日）
埼玉新聞	（令和5年1月4日）
岐阜新聞	（令和4年12月29日）
北日本新聞	（令和4年12月30日）
京都新聞	（令和4年12月30日）
日本海新聞	（令和4年12月30日）
四国新聞	（令和4年12月29日）
徳島新聞	（令和4年12月29日）
高知新聞	（令和4年12月29日）
佐賀新聞	（令和4年12月29日）

難関挑戦志向顕著に

大学入試、資格系も人気

本格的な大学入試シーズンの幕開けとなる来年1月の大学入学共通テストを控え、受験生は追い込みの勢いで、大手予備校河合塾によると、少子化に伴い志願者総数が各大学の入学定員の合計と並ぶ「大学全入時代」に入りつつあり、受験生の難関校への挑戦志向が顕著に。理系では医、歯、薬、獣医といった資格につながる学部、文系では法、経済といった学部の志願者が多そうだ。新型コロナウイルス禍で強まっていた地元志向には陰りが見える地域もある。

難関10大
北海道大、東北大、東大、東京工業大、一橋大、大阪大、名古屋大、京大、大阪大、神戸大、九州大
進路別
筑波大、千葉大、新潟大、横浜国立大、岡山県立大、熊本大、東京理科大学、大阪公立大
早慶上理
早稲田大、慶応大、上智大、東京理科大学
MARCH
明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大
関関同立
関西大、関西学院大、同志社大、立命館大



▽ハードル

河合塾が今年10月に実施した全国模試を分析したところ、国公立では東大や京大、大阪大のほか、筑波大や広島大、熊本大など難関校とされる大学の志願者が多い。私立でも、早稲田や慶応、MARCH明治、青学、立教、中央、法政といった大規模模校が人気だ。大学全入時代を目前に、以前より難関校のハードルが低くなったとみて、志願者が集まったとみられる。高校側からも「特に私立大学は倍率が下がっている。滑り止めは大丈夫なので、第

▽職業直結

学部別にみると、全国模試の受験者は減っているにもかかわらず、国公立では医学部を志願する人が前年比105%、獣医111%、薬108%、データサイエンスなど新学部設置が相次ぐ情報系が107%、法・政治が101%と伸びた。私立でも同様だ。これまでは文系の割合が多かった女子の理系志向が特に強まっているという。

▽コロナ禍前水準

河合塾の分析では、コロナ禍で低かった首都圏の大学を目指す受験生の割合が、東北で上昇。中国・四

国では近畿への進学希望が大きく増えている。地元の大学を目指す受験生の割合は、北海道、東北でコロナ禍前の水準まで低下した。河合塾の近畿治主席研究員は「コロナへの警戒感が薄まり、大都市圏の大学を避ける意識はなくなりつつある。女性の社会進出を背景に、女子が理系を含めたさまざまな分野を志望する傾向が特に強い。難関校に人気を集める状況も含め、今後もこうした動きは続くだろう」と話した。